2024年3月31日

2023年度 筑波大学附属図書館の活動

相互利用の窓口での支払いにキャッシュレス決済を導入　学習支援

キャッシュレス決済端末

2023年5月より、窓口でのキャッシュレス決済を導入し、文献複写、相互貸借等の支払いにクレジットカードや電子マネーが利用できるようになりました。

附属図書館では、2021年9月より文献複写自宅郵送におけるクレジットカード決済を開始し、その後も料金徴収で大きな割合を占める窓口での支払いについて、キャッシュレス化の検討を進めてきました。専用端末の購入など経費的な課題がありましたが、2022年度に予算の目処が立ち導入が可能となりました。

導入後は窓口での支払いがスピーディーになり、日々の入金処理の負担も減ってきています。今後も利用者・職員の負担軽減を目指し、キャッシュレス決済をより広めていきたいと考えています。

附属図書館ラーニング・アドバイザー企画によるセミナーの開催　学習支援

セミナー当日の様子

2023年11月7日、中央図書館2階ギャラリーゾーンにおいて、中央図書館の学生サポートデスクで活動するラーニング・アドバイザー（LA）の企画によるセミナー「卒論・修論に間に合う 論文執筆のポイント！～参考文献の調べ方・イントロの書き方のノウハウ公開～」を開催しました。4年ぶりに対面形式での開催が実現した今年度は、卒業論文・修士論文執筆時の参考となるよう、イントロダクションの書き方や参考文献の探し方・管理の仕方について LA がこれまでに蓄積してきたノウハウを共有するという内容でセミナーを企画しました。

当日は30名の学群生・大学院生の参加があり、参加者が熱心にメモを取る様子も見られ、有意義な会となりました。

「令和7年度以降の筑波大学における電子ジャーナル等の整備方針」の策定について　研究支援

電子ジャーナルリストWebページ

全学的整備方針により提供している電子ジャーナル・データベースについて、2025年度以降の整備方針案の策定のため、関係する副学長、系長等をメンバーとする「電子ジャーナル整備方針検討タスクフォース」を設置し検討を行いました。タスクフォースでは、教員組織及び教員に対してそれぞれ行ったアンケートの調査結果、利用・論文投稿の状況、本学の財政状況等を踏まえて検討し、整備方針案を作成しました。この整備方針案は、2023年度第17回運営会議において審議され、承認されています。今回の方針では、厳しい財政状況を踏まえ、これまで整備していたデータベースから2点を削減、2027年度までの期間中に大学の財政状況等により必要が生じた場合に中止の検討対象とするものを選定しています。

障害のある大学教員のための資料電子化サービスを開始　研究支援

サービス案内ページ

附属図書館ではこれまで視覚障害等のため印刷物の図書や雑誌論文をそのままの状態で読むことができない学生を対象とした資料電子化サービスを行ってきました。これに加えて、2023年8月1日から障害のある本学常勤の大学教員を対象に、筑波大学附属図書館で所蔵する資料をPDF化するサービスを開始しました。筑波大学附属図書館の資料電子化サービスは「図書館の障害者サービスにおける著作権法第37条第3項に基づく著作物の複製等に関するガイドライン」に則って行っています。

障害のある大学教員のための資料電子化サービス
https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/accessibility/d-text-kyouin.html

2023年度附属図書館研究開発室の活動　研究支援

研究成果報告会の様子

研究開発室では、学内の教員と図書館職員等が協力して、図書館機能や貴重図書の保存・公開、図書館の教育研究支援に係る調査・研究、および学術情報の収集・発信等の制度的・技術的課題の研究・開発を中心に活動しています。

2023年度は、室長を含めた室員12名により、役に立つ大学図書館を目指して具体的な企画・実施を図っていくため、6つのプロジェクトで活動をしました。

2024年3月7日、各プロジェクトの研究成果報告会を中央図書館集会室で行いました。口頭発表とポスター発表を行い、多数の教職員が参加しました。使用したポスターは、3月5日から3月19日まで中央図書館2階で展示し、研究開発室の活動を広く知ってもらう機会となりました。

2023年度企画展「古典籍のインターフェース」を開催／常設展示リニューアル　社会貢献

企画展ポスター

2023年10月23日から11月10日まで、中央図書館において企画展を開催しました。本展では、古典籍へのアクセス方法を紐解くために、「本のかたち」「本の構成」「写した本・刷った本」「本を分類する」の4つの視点から図書館資料を紹介しました。また10月27日には、人文社会系・谷口孝介教授による講演会「古典籍の分類と目録」を開催しました。本年はコロナ禍以降久しぶりに入館制限がなくなり、期間中多くの方に来館いただくことができました。
https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/2023/

なお、本企画展は会期終了後、一部の資料を除き常設展示として継続展示しています。

図書館情報学図書館での企画展示　社会貢献

メディアミュージアム展示風景

図書館情報学図書館ではメディアミュージアムにて、2023年11月3日から2024年3月27日まで企画展示「東海道五十三次から読み解く江戸のくらし」を開催しました。

本展示は、図書館情報メディア系研究室との共催で企画され、教員所蔵の歌川広重「東海道五十三次」「浮世道中膝栗毛滑稽雙六」（復刻版）をメインに展示しました。同じ場所を描いた「名所図会」や図情図書館蔵書の「納札集」などとも比較して、旅をするように江戸時代の様々な地域の風景や風物を眺める内容で、学内外の方に長期間にわたって楽しんでいただける展示になりました。

附属図書館ボランティアの活動全面再開

社会貢献

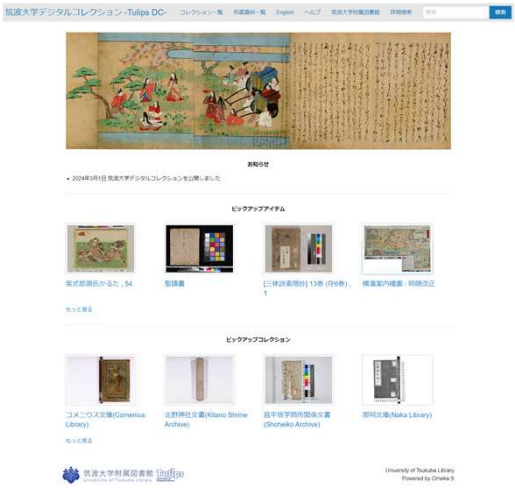
記念イベント参加時の写真

附属図書館ボランティアは、新型コロナウイルス感染症の影響で活動を制限していましたが、2023年4月1日からすべての活動を開始しました。中央図書館のボランティアカウンターでの図書館総合案内、日本文化を紹介するおりがみ講習会は3年ぶりの再開でした。おりがみ講習会には留学生、日本人学生、ボランティアが参加し、おりがみを通して国際交流をすることができました。

また、発足から28年間にわたる活動が評価され、10月1日に開催された「創基151年筑波大学開学50周年記念イベント～DESIGN THE FUTURE Marché～」において、永田学長から感謝状の贈呈を受けました。

図書館システムの更新と筑波大学デジタルコレクションの公開

情報発信



筑波大学デジタルコレクション

2024年3月図書館システムの更新を行いました。基本的な機能は維持しつつ、いくつかの新機能が加わりました。OPAC（蔵書検索）で、電子ジャーナルと電子ブックの検索が可能になりました。Tulips Searchは、これまでTulips Discoveryとして提供していたディスカバリーサービスSummonを利用したものに変わり、OPACと双方で特に電子ブックがより探しやすくなりました。

合わせて、「筑波大学デジタルコレクション」として、これまでOPACで公開していた貴重資料等の電子化画像を利用するためのシステムを公開しました（左画像）。このシステムは国際的な画像共有の枠組みIIIFに対応しており、画像を他機関の別資料と比較するなどの多様な利活用が可能です。

筑波大学デジタルコレクション
https://dc.tulips.tsukuba.ac.jp/

2023年度刊行書籍

情報発信

2023年度刊行書籍

筑波大学出版会は、附属図書館内に事務局を置き、筑波大学の研究成果を発信するため、学術書・教科書・一般教養書等を刊行しています。

2023年度は、バラエティに富んだ次の3点が刊行されました。うち1点は、弊会出版物として翻訳を除いたはじめての英文書籍です。

新刊
『日常のかたち』
『Radionuclides in the Marine Environment』
『ようこそ、山岳と大気がおりなす世界へ』